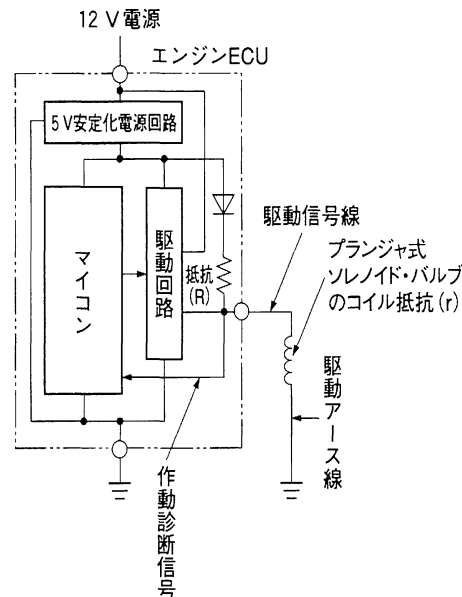


平成 22 年度 第2回登録試験(H23.03.20)

[No. 3] パージ・コントロール・ソレノイド・バルブなどに用いられている図に示すプランジャ式ソレノイド・バルブの異常検知に関する記述として、**不適切なものは次のうちどれか。**

なお、抵抗 (R) はソレノイド・バルブのコイル抵抗 (r) より極めて大きな値とする。



- (1) 正常の駆動停止時、マイコンは作動診断信号電圧が約 0V であれば正常と判断する。
- (2) 正常の駆動時、マイコンは作動診断信号電圧が約 12V (電圧が掛かる。) にあるため、閾値をダウン・エッジしていないと認識して正常と判断する。
- (3) マイコンの異常検知の閾値は、5V 安定化電源電圧値より高く設定されている。
- (4) マイコンの異常検知の閾値は、抵抗 (R) とプランジャ式ソレノイド・バルブのコイル抵抗 (r) との分圧比から算定した作動診断信号電圧より高い値に設定されている。

正解 (3)

異常検知のための作動診断信号線には 5V 安定化電源回路から電圧が供給されるため、閾値は 5V より低く設定されていないとならない。(作動診断信号線の電圧は 5V 安定化電源電圧値より高くなることはないので、閾値が 5V 安定化電源電圧値より高く設定させては意味が無い)